

平成26年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年9月30日

上場会社名 株式会社北の達人コーポレーション  
 コード番号 2930 URL <http://www.kitanotatsuijin.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成25年10月15日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 木下 勝寿  
 (氏名) 清水 重厚  
 配当支払開始予定日

TEL 011-757-5567  
 平成25年11月8日

上場取引所 札

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第2四半期の業績(平成25年3月1日～平成25年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第2四半期	842	26.9	138	5.2	140	16.3	85	22.4
25年2月期第2四半期	663	—	131	—	120	—	69	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年2月期第2四半期	33.51	33.06	33.06	33.06
25年2月期第2四半期	28.85	28.26	28.26	28.26

(注)当社は、平成24年2月期第2四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成25年2月期第2四半期の対前年同四半期増減率の記載をしておりません。

(注)当社は、平成25年2月9日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。そのため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円		%	円 銭
26年2月期第2四半期	1,145	608	608	53.0	53.0	237.30	
25年2月期	1,104	553	553	50.0	50.0	217.30	

(参考) 自己資本 26年2月期第2四半期 607百万円 25年2月期 552百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	20.00	—	13.00	33.00
26年2月期	—	10.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	13.00	23.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)当社は、平成25年2月9日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。平成25年2月期第2四半期末については当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 平成26年2月期の業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	1,677	21.5	341	19.9	342	25.0	208	30.7	82.05

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 有  
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年2月期2Q	2,559,000 株	25年2月期	2,541,400 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年2月期2Q	200 株	25年2月期	200 株
----------	-------	--------	-------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年2月期2Q	2,554,365 株	25年2月期2Q	2,424,521 株
----------	-------------	----------	-------------

(注) 当社は、平成25年2月9日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。そのため、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(株式分割について)

当社は、平成25年2月9日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7
(6) セグメント情報等 .....	7
(7) 重要な後発事象 .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策・金融緩和策への期待感から企業の景況感が改善されるなど景気回復へ明るい兆しが見られたものの、世界情勢の不安定な状況や新興国の経済成長の鈍化等による景気の下振れリスクが存在するなど依然として先行きは不透明な状況で推移しております。

当社の主要な販売形態であるEコマース（電子商取引）業界におきましては、インターネット普及率の上昇やスマートフォン、タブレット端末の急速な普及、Eコマース事業者の提供サービスの拡大に伴う消費者の利便性の向上などによって市場が成長を続けており、今後さらにその成長スピードは加速していくと予測しております。

このような経営環境の中、当社は今後迎える急成長期に対応していく体制作りを重点を置き、中長期にわたる経営力の強化に注力いたしました。

主な取り組みといたしまして、第1に、カスタマーサービスを充実させ、安定ユーザーである既存顧客の満足度のさらなる向上を目指す体制を整えました。一般的に事業が急成長すると売上が急増する反面、売上の急激な増加に対応が追いつかず、顧客満足度の低下を招き、長期的にはマイナスになることがあります。よって、急成長の波をつかみながらも、長期的な安定成長につなぐために、急成長しても顧客離れを起ささないための体制作りを優先して行い、備えている状態です。具体的には、有資格者を中心に構成した「商品カウンセリングチーム」を新設し、購入者一人ひとりのお悩みを解決するためにより専門的なアフターサービスを提供していく体制を整えました。また、従来からありました当社商品のファンの獲得を目的とする「ファン作りチーム」の人員を増強し、WEBサイトの使いやすさ、商品のパッケージの使いやすさ、商品発送時の梱包資材の強度など当社の全サービスを一から見直し、顧客満足度を高めるための改善を施しております。また、従来から要望の多かった海外からのご注文に対応する体制作り、お支払い方法の多様化等にも取り組んでおります。その成果から、定期購入会員数は平成25年5月末時点で初めて50,000名を突破し、現在もお順調に推移しております。

第2に、成長期に向けた商品点数増強のために、商品開発体制を一層強化しております。具体的には、商品開発の専門スタッフを増員し、マーケット調査など商品開発の前段階から開発業務に至るまでのプロセスを改善することによって、多種多様な新商品を同時進行で開発できる体制を構築し、将来の収益基盤を強固にすることに取り組んでおります。

第3に、集客方法の多様化を図っております。より効率性の高い集客を行うために、利用者がますます増加しているFacebookやTwitterを用いた広告手法を取り入れ、それらをはじめとする様々な広告媒体を活用することによって、各媒体の集客にかかる効率性を検討することに加え、ある広告媒体の利用に関して不測の事態が生じても、代替の広告媒体による同等レベルの集客が可能となるように、多様なノウハウを蓄積しております。また、顧客層の中心になりつつあるスマートフォンユーザーに向けた取り組みを継続し、商品購入に関するスマートフォンユーザーの利便性の向上に注力しております。

こうした取り組みのもと、当第2四半期会計期間において、当社の主力商品である「カイトキオリゴ」の売上は、女性からの支持が高いプロゴルファー・タレントの東尾理子さんと締結いたしました「カイトキオリゴ」イメージキャラクター契約による効果が高いこともあり、引き続き順調に推移しております。その他の商品については、第1四半期会計期間と比較して、特に「みんなの肌潤糖 クリア」の売上高が145.6%、「二十年ほいっぷ」の売上高が157.2%と急速な成長を見せており、主力商品である「カイトキオリゴ」や第2の柱である「みんなの肌潤糖（アトケアタイプ）」に続く新たな収益の柱となることを期待しております。また、平成25年4月に発売した新商品「えぞ式すーすー茶」の売上も順調に推移しております。

これまでの当社の取り組みの結果、当第2四半期累計期間では、平成25年4月に商品の品質を審査する国際評価機関であるモンドセレクションが開催した2013年度授賞式において、「カイトキオリゴ」と「みんなの肌潤糖（アトケアタイプ）」が最高金賞（うち「カイトキオリゴ」は2年連続最高金賞）を、「紅珠漢」と「二十年ほいっぷ」が金賞（うち「紅珠漢」は2年連続金賞）を、そして、「カイトキどかスリム茶」が2年連続で銀賞を受賞いたしました。

また、当社は平成25年6月に化粧品事業の拡大のため、株式会社オーダーコスメジャパンを設立いたしました。これにより、北の達人グループとしての新たな収益基盤を構築してまいります。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は842,052千円（前年同期比26.9%増）となりました。また、経常利益は140,032千円（前年同期比16.3%増）、四半期純利益は85,605千円（前年同期比22.4%増）となりました。

（2）財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第2四半期会計期間末における資産合計は1,145,395千円となり、前事業年度末に比べ40,608千円増加いたしました。これは主に売掛金が32,492千円、投資その他の資産が10,341千円増加した一方で、たな卸資産が6,389千円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第2四半期会計期間末における負債合計は536,954千円となり、前事業年度末に比べ14,389千円減少いたしました。これは主に未払法人税等が43,349千円、長期借入金が42,075千円減少した一方で、未払金が35,736千円、買掛金が28,318千円増加したこと等によるものであります。

（純資産）

当第2四半期会計期間末における純資産合計は608,440千円となり、前事業年度末に比べ54,998千円増加いたしました。これは四半期純利益の計上等により利益剰余金が52,569千円、ストックオプションの行使により資本金及び資本準備金がそれぞれ1,214千円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前事業年度末に比べ4,902千円減少し、744,082千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において営業活動の結果増加した資金は、84,567千円（前年同四半期比29,933千円の減少）となりました。この主な要因は、税引前四半期純利益139,973千円、仕入債務の増加28,318千円、未払金の増加35,505千円が生じた一方で、売上債権の増加32,492千円、法人税等の支払額94,139千円が生じたこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において投資活動の結果減少した資金は、17,019千円（前年同期は1,044千円の減少）となりました。この主な要因は、無形固定資産の取得による支出6,591千円、関係会社株式の取得による支出10,000千円が生じたこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間において財務活動の結果減少した資金は、72,450千円（前年同期は39,836千円の増加）となりました。この要因は、ストックオプションの行使による収入2,428千円が生じた一方で、長期借入金の返済による支出42,075千円及び配当金の支払額32,804千円が生じたことによるものであります。

（3）業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成25年3月29日の決算短信で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成25年3月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表  
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成25年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	748,985	744,082
売掛金	84,846	117,338
製品	136,109	126,077
仕掛品	17,616	8,613
原材料及び貯蔵品	72,223	84,869
繰延税金資産	16,186	12,267
その他	6,606	13,750
貸倒引当金	△1,177	△1,232
流動資産合計	1,081,395	1,105,767
固定資産		
有形固定資産	6,375	6,060
無形固定資産	3,985	10,196
投資その他の資産	13,029	23,370
固定資産合計	23,391	39,628
資産合計	1,104,787	1,145,395
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	18,466	46,785
未払金	38,408	74,145
1年内返済予定の長期借入金	100,980	100,980
未払法人税等	94,139	50,790
未払消費税等	13,593	11,594
前受金	84,934	94,814
販売促進引当金	18,049	15,878
その他	6,140	7,410
流動負債合計	374,712	402,397
固定負債		
長期借入金	176,632	134,557
固定負債合計	176,632	134,557
負債合計	551,344	536,954
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	73,771	74,985
資本剰余金	53,771	54,985
利益剰余金	424,745	477,314
自己株式	△77	△77
株主資本合計	552,210	607,208
新株予約権	1,232	1,232
純資産合計	553,442	608,440
負債純資産合計	1,104,787	1,145,395

（2）四半期損益計算書  
（第2四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自平成24年3月1日 至平成24年8月31日）	当第2四半期累計期間 （自平成25年3月1日 至平成25年8月31日）
売上高	663,401	842,052
売上原価	165,130	230,865
売上総利益	498,270	611,187
販売費及び一般管理費	367,012	473,070
営業利益	131,258	138,116
営業外収益		
受取利息	1	20
受取弁済金	20	—
販売促進引当金戻入額	—	2,171
その他	51	457
営業外収益合計	73	2,650
営業外費用		
支払利息	—	711
株式交付費	2,194	—
株式公開費用	8,684	—
その他	5	23
営業外費用合計	10,884	734
経常利益	120,446	140,032
特別損失		
固定資産除却損	—	59
特別損失合計	—	59
税引前四半期純利益	120,446	139,973
法人税、住民税及び事業税	55,907	50,790
法人税等調整額	△5,411	3,577
法人税等合計	50,496	54,368
四半期純利益	69,950	85,605

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	120,446	139,973
減価償却費	1,044	1,064
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,620	54
販売促進引当金の増減額 (△は減少)	9,841	△2,171
受取利息及び受取配当金	△1	20
固定資産除却損	—	59
支払利息	—	711
株式交付費	2,194	—
株式公開費用	8,684	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,117	△32,492
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△38,345	6,389
その他の資産の増減額 (△は増加)	4,452	△7,144
仕入債務の増減額 (△は減少)	13,579	28,318
未払金の増減額 (△は減少)	12,436	35,505
前受金の増減額 (△は減少)	20,173	9,879
その他の負債の増減額 (△は減少)	5,939	△728
小計	157,950	179,439
利息及び配当金の受取額	1	△20
利息の支払額	—	△711
法人税等の支払額	△43,450	△94,139
営業活動によるキャッシュ・フロー	114,500	84,567
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△1,044	△428
無形固定資産の取得による支出	—	△6,591
関係会社株式の取得による支出	—	△10,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,044	△17,019
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	—	△42,075
株式の発行による収入	48,405	—
ストックオプションの行使による収入	192	2,428
株式公開費用の支出	△8,684	—
配当金の支払額	—	△32,804
自己株式の取得による支出	△77	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	39,836	△72,450
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	153,293	△4,902
現金及び現金同等物の期首残高	280,241	748,985
現金及び現金同等物の四半期末残高	433,534	744,082



(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

当第2四半期累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)

当社はEコマース事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。